臨床研修協力病院とのデータベース共同利用：高知大学総合情報センター（図書館）医学部分館の例

田所千峰子*

高知大学総合情報センター（図書館）医学部分館

I. はじめに

近年、大学図書館では公共図書館との連携など、地域との連携の動きが非常に活発になっている。高知大学総合情報センター（図書館）医学部分館（以下、医学部分館）では、平成16年10月より、和文文献データベースである「メディカルオンライン」と「JDream」を臨床研修協力病院と共同利用している。本稿では開始から2年が経過した、高知大学における図書館と地域病院図書室との連携について報告する。

II. 統合と法人化の中で

平成15年10月、（旧）高知大学と高知医科大学が統合し（新）高知大学（以下、高知大学）が開学した。高知医科大学附属図書館は高知大学附属図書館医学部分館と名称が変更になった。さらに平成17年7月、図書館と学術情報センターの統合により名称は総合情報センター（図書館）医学部分館となる。この数年の変化は、医学部分館にとっては非常に大きなものであった。職員数だけをみても、統合前には10名であった定員が、現在5名になっている。特に予算面では、従来高知医科大学で全学的に負担してもらっていた雑誌等の経費が、医学部という1学部にかかってくることになり、雑誌等の継続が困難な状況になっている。医学部分館での雑誌購読数は2003年から2005年にかけて外国雑誌では331誌から160誌に激減し、国内雑誌でも125誌から82誌となった。

III. 診療支援と地域貢献

このような統合・法人化さらには組織改革という大きな変化の中で、他の組織もそうであったように、医学部分館でも自らのあり方を再確認し、業務においては目標

を設定することになってきた。

この時期より医学部分館の資料のなかには、従来の大学図書館としての機能、「教育支援」・「研究支援」に加えて「診療支援」という言葉がみられるようになる。今まで、附属病院の医師やスタッフに対しての支援はもちろん行っていたが、ここで改めて「診療支援」を中央館や農学部分館にはない医学部分館独自の機能として位置づけた。これ以降、医学部分館では臨床データベースを積極的に病院に紹介すると共に、「UpToDate」「今日の診療 Web 版」を病院経費で契約してきた。

また一方、高知医科大学附属図書館の時代から、既に医学部分館は県内唯一の「医学専門の大学図書館」として、文献複写等により県内の病院との繋がりがあった。高知大学でも国立大学法人化により、大学が定めた中期目標・中期計画に「地域貢献」が謳われており、医学部分館ではこの特色を生かした地域連携が何かできないものかと模索していた。

IV. 臨床研修協力病院

平成16年4月からの臨床研修の必修化に伴い、高知大学医学部附属病院（以下、附属病院）でも新たな卒後臨床研修プログラムが始まった。附属病院を管理型臨床研修病院とし、県内の協力型病院、徳島大学病院を研修協力病院、県内の自治体病院や保健所等を研修協力施設としてプログラムを作成している。このプログラムの特徴には、地域医療の研修プログラムの充実が掲げられている。プログラムの中で研修医は地域保健・医療研修として、2ヶ月間診療所研修や保健所研修を行う。これは、県や県内の自治体病院、自治医科大学などと協力して行う、いわゆる高知式地域保健・医療研修と呼ばれ、へき地を多く抱える高知県の特徴を生かしたプログラムとなっている。今回の和文文献データベースの共同利用は、この臨床研修に協力をお願いしている医療機関・指導医に対して、高知大学として何か提供できないかという病

*Chihoko TADOKORO：〒783-8506 高知県南国市岡豊町小蓮。
(2007年1月22日 受理)

院長の提案から始まった。

V. 臨床研修協力病院への図書館支援

病院長の提案を受け、医学部分館で臨床研修協力病院（以下、協力病院）への支援について検討した結果、①協力病院関係者への時間外利用の拡大、②電子コンテンツのオンライン共同利用の2つを進めていくことになった（図1）。

図1. 高知大学附属図書館医学部分館と臨床研修協力病院との連携について（平成16年7月）

①については、医学部分館の利用について便宜を図ろうというものであったが、高知大学附属図書館では既に従来より学外者に開放しており、申請があれば学外者も貸出等可能であったため、学内申請者に対して行っている閉館時間後の利用サービス（平日20:00-翌日2:00、土16:30-翌日2:00、日9:00-翌日2:00）を協力病院の関係者にも拡大することになった。しかし、実際行ってみると、協力病院が高知県内の東西に散らばっているという地理的な問題もあり、近隣の病院から毎年4～5名の申請があるだけの利用に留まっている。

②については附属病院の経費で契約し、医学部分館が管理することになった。コンテンツについては臨床現場ですぐに利用できるもの、医師だけでなくコメディカルも利用できるものをということで選定を行い、和文文献データベースである「メディカルオンライン」と「JDream」を導入することになった。当初連携する病院は、特に関係が深い、高知県立中央病院（現在の高知医療センター）、高知県立幡多けんみん病院、高知県立安芸病院、国立病院機構高知病院、高知赤十字病院、細木病院、近森病院の7病院に決定し、平成16年10月より運用を開始した。

VI. メディカルオンライン

メディカルオンラインは医学系雑誌論文の全文をオンライン又はFAXにて閲覧・入手できる株式会社メテオインターゲートが提供しているサービスである。契約直後の平成16年11月時点での利用可能なジャーナル数は400誌であったが、平成18年12月1日時点では517誌に増加している。利用形態は、フリーアクセスプランで高知大学がIP認証方式、各協力病院はID/PW認証方式で利用している。

利用状況（図2）では、利用を開始した平成16年10月のダウンロード数は376件で、それから徐々に増えていっているものの、平成17年3月頃までは伸びは小さいが、平成17年4月以降一気に利用が増えている。この頃からメディカルオンラインの利用が、ある程度定着してきたようである。利用開始当初は、学内から複写依頼された文献が、メディカルオンラインでの利用が可能で、依頼者に返却するケースが非常に多く見られたが、最近ほとんどなくなっている。

高知大学と協力病院の利用の割合（図3）はやはり高知大学での利用が多く、約80%を占めているが、徐々に協力病院での利用も増えており、今年度10月までの統計では高知大学の比率が76%程度になっている。しかしこの場合、病院規模による利用の差は大きい。

利用の多いタイトルは表1のとおりになっている。リハビリ関係の雑誌が多い。また「医学のあゆみ」や「総合臨床」など医学部分館や病院図書室でも購入している

図2. メディカルオンライン利用状況

図3. 機関別利用率（平成17年度）

雑誌のアクセスも多く、雑誌の購入を中止することも考えられるが、メディカルオンラインは全文が利用できるようになるまでのタイムラグがあるのでそこまでは踏み切れないのが現状である¹⁾。

表1. メディカルオンライン利用タイトル TOP20 (2005.4-2006.3)

雑誌名	ダウンロード数
理学療法学	1871
小児科診療	1496
診断と治療	1437
医学のあゆみ	1347
治療	1310
総合臨牀	1277
Modern Physician	817
理学療法	660
Medical Practice	557
癌と化学療法	539
外科治療	526
小児科臨牀	468
JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION	449
日本医事新報	436
胆と脾	433
作業療法	405
臨床栄養	358
日本臨床	348
ICUとCCU	347

Ⅶ. JDream

JDream は科学技術振興機構（JST）が提供する技術や医学・薬学関係の文献情報検索ができるデータベースサービスである。利用開始後の平成17年2月からは先に紹介したメディカルオンラインとリンクが張られ、検索結果からメディカルオンラインの全文情報に直接アクセスできるようになった。また、平成18年4月からは大幅な機能拡張をおこない JDream II となっている。

この JDream では、協力病院のうち高知赤十字病院がすでに独自で利用していることもあり外れて、他の6病院と高知大学の共同利用でスタートした。当初、費用は高知大学ですべて負担していたが、平成18年度より各病院に参加費の負担をお願いすることになった。また、18年度より高知県立芸陽病院からの共同利用の申し入れがあり、参加病院が7病院に増えている。

利用形態は各機関とも ID/PW 認証方式で利用している。

利用状況は図4のようになっている。高知大学での利用は ID/PW アクセスということもあって、あまり多く

図4. JDream 利用状況

なく、むしろ協力病院で利用されている。特に平成18年4月以降に JDream II になってから協力病院での利用が増えている。

Ⅷ. 臨床研修協力病院図書室連絡会

このデータベース共同利用を開始してから毎年1回、病院図書室担当者と連絡会を開催している。これによりあまり知ることのなかった病院図書室事情などもわかるようになってきた。なにより、人的ネットワークができたことの収穫は大きく、医学部分館で開催する講習会等では各病院に案内して希望があれば参加していただいたりしている。さらに、本学が県の教育委員会生涯学習課と共催している「県内図書館関係者の集い」にも参加していただいている。

Ⅸ. 今後の課題

まず、現在連携しているのは、高知県内では比較的小規模の大きい臨床研修協力病院となっている。これとは別に、高知大学の臨床研修の特色である地域医療を担っているへき地の中小の病院等とも連携できないか検討中である。

次に、経費の問題である。メディカルオンラインは現在高知大学で負担しているが、利用増加で18年度の契約費用が大幅増になった。先に述べたようにメディカルオンラインの利用では冊子体で購入しているタイトルの利用も多く、その利用で契約金額が上がるのでは困るので、学内では急がない場合はまず冊子体の所蔵がないか確認するようにお願いをしているが、やはりオンラインの便利さには勝てない。経費については病院長から「できるだけ援助をする」とのお話はいただいているが、今後高騰が続くようであれば、JDream と同様に協力病院へのある程度の負担をお願いしなければならないと考えている。

また現在連携している協力病院の中でも図書室専任の

司書がいるところもあれば、事務の方が連絡係をしているところもあり事情が様々である。病院によってはこの2つのデータベースも十分利用しているとは言えない病院もあるので、それらの病院に対しての利用促進や文献入手についての支援を医学部分館としてできるように検討していきたい。

X. おわりに

平成18年11月に第42回日本医学図書館協会中国・四国地区会総会を高知大学の当番により開催した。その中で、会員である病院図書室の方から大学図書館へ文献入

手支援を要望する意見が出され、地区会として検討していくことになり、文献の迅速な入手が病院図書室の切実な問題であることを改めて実感させられた。医学部分館でも、協力病院のみならず県内の医療機関の文献入手支援ができればと考えている。今後、この協力病院との連携を足がかりに、医学部分館が県内の地域医療の中心的な図書館になれるように努力していきたい。

参考文献

- 1) 折井匡. 信州大学医学部図書館電子化の歩みとメディカルオンラインの導入. 医学図書館 2006;53(3):284-9.

Library Cooperation between Kochi University and Local Hospitals

Chihoko TADOKORO

Kochi University Integrated Information Center (Library) Medical School Branch. Oko-cho Kohasu, Nankoku-shi, Kochi 783-8506, Japan

Abstract: A new clinical training system was started in April 2004. The Kochi University Integrated Information Center (Library), Medical School Branch, has been sharing two Japanese reference databases, "Medical Online" and "JDream", with local hospitals where medical students at Kochi University have been working as clinical residents since October 2004.

Here, the library connection/cooperation between Kochi University and these local hospitals is reported.

Key words: Library Cooperation; Medical Online; JDream; Regional Medicine; Clinical Training System
(*Igaku Toshokan* 2007;54(1):69-72)